

会 議 記 録

会議名称	第2回 杉並区基本構想審議会 第3部会
日 時	平成23年4月26日(火) 午後3時15分～午後4時56分
場 所	東棟4階 庁議室
出席者	委員 池田、三輪、佐藤、手塚、船越、若林 区側 教育委員会事務局次長、子ども家庭担当部長、 教育委員会参事(特命事項担当)、企画課長、区民生活部管理課長、 文化・交流課長、子育て支援課長、保育課長、庶務課長、 社会教育スポーツ課長、済美教育センター副所長
配付資料	資料1 柴田委員からの意見(メモ) 資料2 「保育園運営事業」行政コスト計算書 資料3 第3部会検討テーマの整理に向けて(これまでの議論の整理) 資料4 佐藤委員からの意見(メモ) 参考資料1 「10年後の杉並を考える区民意見交換会」の実施について 参考資料2 区内各種団体からの意見提出の実施
会議次第	1 開会 2 議事 (1) 部会の検討テーマの整理について (2) テーマに関する議論 3 その他 4 閉会

○部会長 これから第2回杉並区の基本構想審議会の第3部会を開催します。前回の部会では、部会の役割と部会の進め方について確認していただきました。と同時に、委員の皆さんの自己紹介も兼ねた自由意見の交換ということで、いろいろな追加意見や新しい意見を出していただきました。今日、皆さんからご意見をさらにいただきながら、本部会の検討テーマについて確認していきたいと思っております。

それでは、議事に入ります前に、請求がありました保育園に関する資料その他について事務局の方からの説明をお願いいたします。

○企画課長 本日は、〇〇委員、〇〇委員、〇〇委員、〇〇委員の4名がご欠席ということでございますのでよろしくお願いしたいと思います。

まず、資料1でございます。本日ご欠席の〇〇委員からメモという形でご意見をちょうだいしていますので、委員の皆様へ配付をさせていただきました。前回、第1回の部会のときも保育園の待機児の問題に関してご意見をちょうだいしましたが、そこに追加補足ということで、枠の中に記載した内容につきまして関連した意見を申し上げたいということでございますので、参考にお配りをいたしました。

その〇〇委員の方からは、前回、保育園の事業に関するコストについて資料を出してもらいたいということがございました。これにつきましては、資料2ということでご用意させていただきましたので、所管の保育課長の方からポイントをご説明申し上げたいと思います。

○保育課長 保育課長です。よろしくお願いいたします。

お手元にお示しいたしました資料、「『保育園運営事業』行政コスト計算書」は、区が実施いたしました事業別行政コスト計算書、ABC分析とっておりますけれども、その抜粋でございます。こちらにつきましては、毎年区の事業の中で幾つか選び出しまして、そのコスト計算などを行っているものでございます。平成22年9月、直近に保育事業について分析をいたしました結果を添付させていただきました。

内容でございますけれども、こちらにつきましては区が直接運営している保育施設、区立保育園と区の保育室のコストの計算でございます。

平成21年度でございますけれども、コストの総額としては約102億円余とい

うことですが、そのうち収入が12億円強ということで、差し引きの行政コスト、区のいわゆる持ち出し額が約90億円強ということになります。これは、単純に園児数で割った子ども1人当たりの保育に係る区の持ち出し、区の負担額でございますけれども、それが218万円と、子ども1人当たり年間218万円の区の持ち出し、費用負担がかかっているということでございます。

なお、この表の下の園児1人平均ということで、「園児一人あたりの事業別平均コスト純額（区負担）D/F」というところ、下から5行目のところが年齢別のコスト計算でございます。一番右の合計というところが、今申し上げました218万円という数字でございますけれども、年齢別で見ますと0歳児が370万円余ということで、以降、年齢によりまして純減しているという状況でございます。0歳児が一番人の配置等も手厚い面もございまして、コストがかかると、そういった計算でございます。

あと、参考までに裏面でございますけれども、裏面の一番上の方、丸の一番目でございます。こちらは、今、区立保育園につきましては44園ございますが、40園が、いわゆる直営、区の職員を配置して運営をしております。残り4園は指定管理者制度と申しまして、社会福祉法人、株式会社等に指定管理、運営をお願いしているということでございます。その別のコストを分けて計算をしていただいたものでございます。これを見ますと、区の直営園につきましてはコストが257万円、これに対しまして指定管理園が192万円ということで、コストの違いがあると。そういったデータでございます。

ご説明につきましては、以上でございます。

○部会長 ありがとうございます。ご意見ありますか。よろしいですか。

それでは、今日の議事に入りたいと思います。

○企画課長 それでは、資料3について、まずご説明を申し上げたいと思います。

検討テーマの整理に向けてということで、前回の、副部会長がホワイトボードでいろいろと書いていただいたものを、改めて整理をしてみたものでございます。

簡単にご説明申し上げますと、まず、議論の中で、どんな区民になってほしいのかというキーワードが出ました。ここについては、これから10年後のあるべき姿、当部会の分野の目標といたしますか、そんなところにつながる議論

だったかと思っております。

そうした議論があった上で、この資料の真ん中のところの「子育て、子育て」については、主に乳幼児期に着目したご議論があったかと思っております。この枠の中には幾つか意見として出されたキーワードをまとめてございます。安心して子育てできる環境の整備、以下、就学前教育の問題、あるいは障害のある子どもの自立と支援の問題などなど、幾つものキーワードをいただきました。ここで、枠の中で児童の虐待防止というところに下線がついておりますが、以下、この資料の中で下線がついている部分については、前回触れていただいた部分のほかに、こういう視点があってもいいかなということを正副部会長とご相談しながら追記をしたものでございます。

もう一方、この枠の右側の方ですけれども「学齢期以降」ということで、生きる力・考える力・行動する力、そうしたものを培う、育てることが必要だというようなご議論。あるいは、知力、体力を整える環境の整備というのが重要だと。一方で、無気力な子ども、あるいはニートというような議論もあって、子どもの自立に向けて、これからどう取り組んでいくかというところの議論があったかと思っております。

これらの記載の議論があって、こうしたライフステージに着目すると、双方に関連性があるということで両方を矢印で結んでいると、こういうイメージをまとめました。このライフステージのところでは、すべての子どもへの切れ目ない成長・学びと支援、こんな整理が考えられるかなというところで、記述しています。

次に、下の方から矢印が上に来ていますけれども、ライフステージを取り巻く環境といいますか、地域、文化、そうしたことが大きく係ってくるという議論があったかと思っております。この下の枠の中では、まず一つ目の丸で地域の中での自立・子育て。大変恐縮ですが、ここ、子育ての後に「・教育」とつなげていただけますでしょうか。言葉が漏れてございました。地域の中での自立・子育て・教育、これをいかに支援していくかと、こういう議論があったかと思っております。そうした中で、世代間の交流の活発化、あるいはボランティア活動、そうしたものをいかに進めていくか、こんな議論もあったかと思っております。世代間の交流だとかボランティア活動などを通じて、いわゆる人材の

循環といますか、生涯学習だとか、そういうものと相まって、いかにこれから進めていくのかという議論。あるいは、そうした中で、高齢者の持つ豊かな知識、経験をいかに生かしていくかと。その辺について知の循環型社会というキーワードもいただいたかと思っています。一方で、身近な文化・創造活動のそうした取り組みの必要性。あるいは議論の中で、日本語だとか外国語だとかいうものも含めた日本の文化、あるいは外国の文化を相互に理解し、グローバル社会の中でどういうふうに、これから、子育てや教育にうまくつなげていくのか。そうした議論があったかというふうに思っています。下の方にありますとおり、これまでの議論でも、時代の変化を踏まえた、そうした視点からの文化・芸術というものの環境整備についても議論として出ていましたし、こういったところを総称してまとめますと、地域の子育て力・教育力の向上とつながり、そして文化・生涯学習の振興という整理が考えられるかなということがございます。

しかも、先ほどの循環という議論の中で、こうしたライフステージだとか、それを取り巻く環境というものが、まさにスパイラルな関係になって、必ず一方方向の回りだけじゃなくて、すこし先の方から前を見詰め直してみるという議論も必要だということもあって、脇から双方の矢印ですね、スパイラルのイメージをこしらえたのが、この資料でございます。

前回までの議論を、こんなふうに整理してみたということでございます。

関連して、本日ご欠席の〇〇委員から、前回少し言い足りなかった、あるいはその後少し感じたことを、メモにまとめていただきましたので、ご紹介を申し上げたいと思います。

時間の関係もありますので、ポイントに絞らせていただきますけれども、まず、一つ目のパラグラフのところでは、先日、委員からもお話にあった外国語教育に関して補足のご意見が記載されています。これからそういうことを考えたときに、地域力、ボランティアの力をうまく影響させていくというか、こうした視点が出てきているかなというふうに思っています。

その次のところでは、外国語教育だとか国際理解教育、そのあたりを一つ目玉といますか、大きな取り組みの核として考えてもいいんじゃないかというご提案をいただいています。以降、この1ページ目の後段の方では、日本語

教育の重要性も指摘された上で、若者の自立等の議論との関連づけもできるんじゃないかという問題提起。

そして、裏の方にまいりまして、保育を初めとする子育てに優しい環境づくりの重要性。

中段以降は、世代間の交流あるいは知の循環型社会、そうしたキーワードに触れながら、そうしたスパイラルな関係の中で高めていく、広げていく、そんな視点が必要じゃないかというご意見だと受けとめてございます。

事務局の方からは、以上です。

○部会長 ありがとうございました。

前回、〇〇委員が語句を整理して立派なものをつくっていただきました。ありがとうございます。今日は、これをさらにたたいていければと思います。

そこで、前回ご欠席でした〇〇委員の方から、文化に関しての資料があるということですので、よろしくご説明をお願いします。

○委員 どうも、前は欠席して失礼いたしました。

前回の議論をちゃんと拝聴してないところですけども、今回、私、この第3部会で、多分、団体推薦が文化協会というところですので文化という文言について多少何か意見を申し上げるという立場にあるかなと思って、今日、少しメモの形でまとめさせていただきました。今までの議論を踏まえて、各委員のご意見を聞かせていただければありがたいと思います。

ご承知のように、区というのは地域の住民にとって一番身近な行政体なんです。文化を取り扱うときに、従来、ややもすると「豊かな文化」というような抽象的な言語で語られがちなんですけれども、基本構想という枠組みの中で可能な限り、より具体的な施策や道筋を踏まえたきめ細かな配慮が必要ではないかというふうに考えております。

ここで私が申し上げているきめ細かな配慮というのは、一つは、杉並区は二つ大きな地域に分かれております。住居地域と商業地域と。それぞれの地域において、文化というのはやっぱり役割が違うんだということなんです。それからもう一つは、対象世代ですね、子どもたち、それから若年層、成人・就業層、高年齢層、そういう各層において文化というものの意義づけが違ふと。例えば教育と関連したところの文化と成人社会での文化とは、意味

合いが全く違っているということを配慮する必要があるだろうと思うんですね。それから領域ですね。芸術文化、生活文化、地域文化、それぞれ文化という言葉がついていますが、意味内容が違うということ。最後に、この部会がそういう形で設定されているわけですが、他領域、教育、福祉などの重なりとつながり。ここからが文化で、ここからが教育の範疇じゃないかみたいなことをちゃんととらえていかないと、文化って曖昧模糊としてしまう。文化というのは、言葉は非常に立派なんですけれど、切実感のない言葉なんです。福祉だとか教育というライフサイクルの中で非常に切実感のある言葉なんですけれど、文化というのは、そういう切実感を持ってないので、やはり少し詳細に見ていく必要はないだろうかと思います。

具体的施策については、発掘・発見、それから育成・創造、継承・発信という、こういうスパイラルをやっぱり描いていくんだらうというふうに思います。それぞれの内容については、ここにちょっとメモ書きしましたが、特に重要なのは、育成・創造のときに、芸術文化への、地場産業的な観点の導入というのは、これからどうしても必要だと思うんですね。今まで文化というのは何か余暇のものであって、必ずしも産業と結びついてないんですけれども、特に商業地域なんかにおいては、文化というのは非常に地場産業的な意味合いを持っているんだと。最後に、継承・発信の中で、行政は、やはり評価体制というのを整備しなければいけないと。芸術文化というのは、定量的な評価はなかなかしにくいんですけれども、やはりこの評価体制の整備というのは、文化にとっては重要なことじゃないかと思います。

今までの公共と文化の関係という、公共が地域の上であって、そこへ専門家たちが諮問するような形、あるいは仲介するような形でいたんですけれども、現場で地域と行政と専門家が協働していくような体制をつくらないといけないということですね。それは、実際に内容としてもそうなんですけれども、この下に、下段に、今、資金面を書いているんですけれども、これもやはり応分に負担していくという考え方ですね。つまり、区が考える文化行政というのは区の予算だけでやることではないんだという、専門家も、それから、その地域の人たちもみんなが持ち寄ると。その中で一番大きなものは専門家と地域住民はボランティアという考え方ですね。つまり、今までだと区

との文化の関係とかというと、必ず区からこういう事業をつくっていただいて予算をもらうということでは何かをやっつけようとするんですけども、そうじゃない考え方を入れる必要がある。より積極的には寄附行為であるとか、それから専門家は、ほかの助成金や何かをとってくるであるとかというみたいなことを活発にする必要があるだろうというようなことです。

今、概略的に申し上げましたが、今、これは非常に具体的な施策に触れてしまったんですが、そういうある将来的なビジョンを踏まえつつ、そこへうまくつながるような文化の位置づけを考えていただければと思います。

それに関連して、現在、私がかかわらせていただいております杉並芸術会館の地域経済活性化等市場調査報告書というのを、去年、区の方でおまとめになりましたので、それを、ちょっと見ていただこうと思います。まず50ページですね。50ページから51ページにかけて、この杉並芸術会館というのは大体オープン以来、毎年20万人の来館者があるんですが、その来館者がどこからいらっしゃっているかという居住地が51ページに円グラフになっていると思います。ここで注目するのは、23区以外からの来館者が一番多いということなんです。これが、やはり文化というものの一つの経済的な役割ですね。ある文化的な産業というのは、広いところから人を集めることができる。それが地元の、高円寺の場合でいえば商店街ですので、商店街へ還元できる。

どのような還元が考えられるかというのは、60ページにまとめてあります。これは、もちろん抽出人数がそんなに多くはないので、ここでの数字をひとり歩きさせることはできないんですが、調査の段階では平均来館者、一人が、高円寺の街で1,500円消費していると。それを年間の、大体60%の方たちがそう消費すると、地元で約1億9,000万円ぐらいの経済効果があるということで、そのほかに、座・高円寺では、職員は、20名以下なんですが、雇用としては非常勤、業務委託、それからアルバイトを含めて100人ぐらいの雇用を生み出しております。文化活動の、こういう側面というのは、これから考えられる必要があると。

もう1点は、座・高円寺が、今、割と活発にできているのは、何よりも高円寺という街がもともと持っている潜在力なんです。施設をつくったことによって、その潜在力が浮かび上がってくる。具体的に申しますと、オープニ

ングで大道芸のフェスティバルをやったんですが、そのときに商店会の方たちが非常に積極的に協力していただいて、それがきっかけで商店街会連合が、もう一度結成されるというような動きが生まれたんですね。それは、何も座・高円寺ができたから商店会連合ができたわけではなくて、もともとそういう地力を持っているわけですね、地域が。それが一つうまく施策と結びつくことによって、その地力がもう一つステップアップしていく。そういう意味でいえば、そういうポテンシャルというのは杉並区各地域に、スポーツもそうですし、いろんな潜在的なポテンシャルがあるわけですね。政策というのは何か外から持ち込んできて何かを与えるのではなくて、今あることを発見して地域、その地域自身の力というのを、発掘、育成していくという観点というのは一番重要だろうと思います。それで、全体会議のときも、今までの文化の議論だと、どうしても専門家がやる文化芸術、高度な文化芸術というところから入るんだけど、一度そうではなくて、地域文化、それから地域の文化力というところへ着目してみる必要があるだろう。その中で、また地域には非常にすぐれた芸術家も住んでらっしゃるし、その方たちの活動が、どうやったら地域と結びつけられるかという観点を、やっぱり持つ必要があるのではないかというのが発言をさせていただきました。

ちょっと多岐にわたって未整理のところもあると思いますが、ご理解いただくためのガイドラインというふうに考えていただければ結構だと思います。また、折に触れてご指摘、ご意見等いただければと思います。ありがとうございました。

○部会長 ありがとうございました。とても興味深いご意見をいただきました。ほかの方々、ご意見ありましたらどうぞ。

○委員 今の文化は、私も、ある種、産業にかえられるものなので、やはり何か精神的な余裕を満たすものでもあるんですけども、ほかで見ているところでも、結構産業にかえて活性化に結びつけるということが多いですので、それが小さなものからでも拾えると思うんですね。アニメの舞台がたまたま自分の街だったということで、年間何億という売り上げを上げて、各商店が年間200万ずつ売り上げが上がったというような街もあるんですね。ですので、何が文化になるかもわからないし、領域は難しいことがあるので今言いませんけれ

ども、一つ、この部会とちょっと離れてしまうのかもしれませんが、産業に十分なり得る、なっているというものもありますので、そういう視点でもう少し考えてくださるとうれしいかなというのがちょっとあります。

○部会長 ○○委員、何かございましたらどうぞ。

○委員 この第3部会で文化を取り上げるというと、そこをどうやって組み合わせていくのかというのがすごく難しく、文化だけで一つのテーマになって部会ができていくくらいなのに、ここをどうやって、これをセッションさせていくかというのがすごく難しいなというのを今考えて、これをどうやって子育て・教育というところにつなげるか、そこばかりにつなげていくと、文化の本来話し合わなければいけないところが損なわれてしまうような気がして、そこがちょっと大きな課題かなと思っております。

○部会長 ○○委員、少しアイデアください。確かに、子育て、教育、文化といったときに、今、○○委員が言われたような文化ということを見ると、本当に杉並区全体の、それこそ住宅地域と商業地域も、またそれぞれの文化、政策があるでしょうね。

○委員 座・高円寺をやったときに地域ってということを考えたときに、子ども事業をまず中心に組もうって考えたんですね。子どもにとっては地域って全世界なんですよね。子どもは世界を自分の暮らしている地域の類推で見ると。ですから、その地域が豊かであれば、子どもたちはいろんなものを非常に豊かに理解することができる。でも、地域が非常に閉ざされたり情報がないと、子どもたちの想像力って広がっていかないので、そういう意味では、思い切って子どもに、まずシフトする、それから教育にシフトするって選択も、僕は議論の中ではあり得ると思うんですね。もちろん前提的には広範囲に押さえておく必要があるんですけども、ここ10年は、とにかく杉並の子ども文化を開かせようとか、子どもスポーツを開かせようというみたいな、そういう重点的な視点というのは、僕は持つべきだと思うんですね。地域と密着しているんだということで全体の政策と結び合わせるとしたら、網羅的であるよりも重点的である方が僕は何かいいような気がする。

○部会長 ありがとうございます。○○委員、ちょっとご意見お願いします。

○副部会長 私は専門が生涯学習や社会教育で、どちらかというと中高年が対象です。で

も、前回の議論の中で、表の上の方に子育て・子育で、それから学齢期以降ということで、〇〇委員が言われたように、比較的子どもを前面に押し出しているんですね。また子どもを切れ目なくということで、乳幼児だけではなく子どもを押し出してというのは大事じゃないかと思います。〇〇委員は、高齢者のことを前回言われました。子どもが前面に出て中高年が見えないのではないかというふうに思われるかもしれません。それは表の下の方に入れています。自分の自己実現のための生涯学習とか文化とかがあっても、自分たちの自己実現だけじゃなくて、次の世代に自分たちが培ったものを伝えていく。子どもにとっては迷惑かもしれませんが、でも、単に地域の大人たちが自分たちのためだけじゃなくて次世代に生かすようにしていくというのがあるから、最終的には中高年のことも、ここには入っているのかなと思います。繰り返しになりますけど、中高年のことも入れながら、しかし焦点を子どもにという流れが、この図に反映されているように思うので、私はおもしろいなと思います。

○部会長 つくっていただいた方、本当にお忙しいところありがとうございます。今のところで、地域と文化と子どもたちに焦点を当てるとということと、成年、高齢者の自己学習、自己向上というか、そういう生涯教育とかというものと、うまく、世代間交流していけるような発想とか試みとか、そういうもので、つなげていくしかないのかなという感じです。

〇〇委員、どうですか。

○委員 今のお話伺っていて、本当にそのとおりだというふうに思います。将来、人口の構成から言いましても、逆ピラミッドになっているわけですから、本当に小さなお子さんというのは大事に大事に育てていかなければいけない。日本の将来を背負って立つ方々ですからね。そういう意味で、今、〇〇藤委員からおっしゃいましたように、地域でお子さんを大事にするということは大変いいことだと感銘を受けたわけですが。

ただ、広い意味で文化というのはいろんなものが入るというふうに思うわけですから、自分が体育協会をバックにして出ているものから、どうしてもそちらの方に話題が行ってしまうわけなんですけれども、下から2段目に健康増進とスポーツ振興というふうにあります

が、この中に、やはり青少年の健全育成ということが非常に大事なことになってくるのではないかというふうに思うんですね。この前もちょっと申し上げたかもしれませんが、幼稚園の子どもさんとか、あるいは保育園のお子さん方というのは、本当にマナーが行き届いているんですね。本当にそうです。私、実は、週に2回ほどスポーツジムに通っているんです。昨日も行ってきたんですが、そのジムの裏が階段なんです、その階段ですれ違いますね。そうすると、幼稚園、あそこのスポーツジムの中に幼稚園もあるわけなんですから、小さいお子さんは、道を譲ってあげると、必ず「ありがとうございました。」と、こう言うんですね。小さいお子さんが、そういう礼儀をちゃんと心得ていらっしゃるにもかかわらず、だんだん大きくなってきますと、そういうことが失われてくる。これはどういうことなのか。幼稚園、保育園の先生方、小学校の先生方は大変だと思いますが、この中学校以上、私も高校の方に関係しておったんで余り大きなことが言えないんですけども、もっと中学、高校の教育界の者も、そういう健全育成という意味で大いに力を発揮していかなくちゃいけないんじゃないかなというふうに思うわけですね。

そんなことでいかがでしょうか。

○部会長 幼・小から中学、高校に行くところで、学齢期以降のところでも無気力な子どもたちの多くがニートになっていたりしている現象があるのですが、この辺りにかかわって何かご意見ありますか、〇〇委員。

○委員 やはり何が大事なのか、どこに価値があるのか、非常に抽象的でございませけれども、価値観というものをもっともっと育成していくということが大事なんじゃないかなというふうに思うわけですね。その中にはマナーも入りましようし、それから、そのほかの自分自身の生き方、人生観、そういうものもあると思いますが、今度の大地震に当たって、本当に若い方々がボランティアとして大いに活躍していらっしゃいますね。そういう方々ばかりならばよろしいんですけども、中にはそうじゃないというような方もありますが、どこに価値を置くのか、自分の人生に価値を置くのかというようなこと、これを高学年といいますが、中学、高等学校の教育ではもっともっと強く進めていくことが大事なんじゃないかなというふうに思うわけですね。抽象

的で申しわけございませんが。

○部会長 もう少し具体化すると、かみ合うかもしれません。文化から、教育、子育て、全部絡んできますので。

○委員 スポーツも広い意味で文化でございますからね。そういうものを通して、やっぱりマナーの育成ということが非常に大事じゃないかなというふうに思うんですね。本当に、自分たちが若い時分には、「今の若い者は。」って随分言われたんですが、同じことをやっぱり今自分も言っているような感じがしてならないんですね。

○委員 今のマナーのお話、本当に耳が痛くて、幼稚園生を見て、小学生を見て、中学生を見て、私も子どもが3人いますので見ていると、幼稚園でできていたことが小学生になったらできなくなる、小学生できちんとできたものが中学生できなくなるというのは、ある程度、発達段階で成長している証拠でもあって、それがずっとできていて、完璧にできていたら、それはそれでちょっとまずいかなと思うんですけども、そこで、どうしてそうやって崩れたままにいかないようにするには、私はいつも思っているんですけど、今の子どもたちって、縦と横の関係しかないんですよ。先生、親の縦、言われる、教わる、上からおろされる関係と、お友達の横の関係しかなくて、斜めの関係というのがなくて、その斜めの関係をいっぱい体験すると、いろんな価値観の人も見えてきますし、いろんなことを体験する、親から言われ、友達を見て、テレビの一方的な価値観だけでなく、自分で体験していくということがすごく、その中で自分で価値観を見つけて自分の必要とするべきものというのを見つけていくんだと思うんですけども、それをどうやって今の子どもたちに与えるかといったら、やっぱりさっきの世代間交流じゃないですけど、地域の方の力とか、そういう全く自分とはかけ離れたところにいる方からの交流というのがすごく大事じゃないかなと思ってるんです。なので、この文化にかかわらず、いろんなところで、先ほどの〇〇委員のお話にもありましたし、前回、〇〇委員のお話にもありました体育館を開放して高齢者の方が見るとか、地域の方が見るとか。今日も、ちょっと児童館の方のお話を聞いたら、日曜日にサンカードシステムというのがあって、親子が小さいお子さんを連れてお父さん、お母さんが、そこで遊べる、そこでシル

バーさんが来て一緒に遊べるシステムがあるそうなんですけど、ほとんどそれが周知されていないということなんです。なので、そういうこと、いろんなところで多分やっていると思うんです。そういうのを、もっと広報して、ばらばらな動きではなくて、もっと盛り上げていくと、新しくつくるとかいうことも大事ですけど、今あるものをもうちょっと充実させていくというのも一つの手かなと思っています。

○委員 僕も今の〇〇委員の、二つの点で賛成なんですけれど、一つは地域の力ということなんですけれどもね。僕らの世代だと、友達というのは二種類あったんですよね。学校に行った友達と近所の友達。近所の友達というのは相当年齢構成が広くて、僕の小学生のころだと、中学生から3歳ぐらいまでが、まさに地域で遊ぶというような。今は、それは実際には自然発生的にはできないような住環境になっているので、テーマになっている文化とか、子育てとか、それから教育というのは、それぞれ非常に独立した概念ではあるけれど、〇〇委員がおっしゃったように、ある種の地域力みたいなもののでくるむと、相互に関連してくるんじゃないかということが1点。

もう1点、今のご意見に共感したのは、既にあるんだと。それをどうやって結び合わせたり浮かび上がらせるかということに、もう少し力を尽くすべきではないかっていう。これは、本当に行政とか、そういうところでしかできないんですよね。広く見て評価して浮かび上がらせていく。その情報をうまく拾いあげて、地域に還元して伝えてあげるということは非常に重要なご指摘だったと思います。何か新しいことをつくることもいいんですけれども、いろんなところで、学校でもいろんな試みがされているんだけど、それがみんな孤立しているという状態が今あると思うんです。〇〇委員がおっしゃったスポーツなんかのことも含めて、そういう事例がここで伺わせていただくと、少し具体的な事業の形、あるいはビジョンが見えてくるんじゃないかと思いました。

地域力というのは、すごく重要な概念だと思うんです。これから住んでいる地域、今までは何か、暮らしとかというだけだったんですけど、そうじゃなくて、教育とか、そういうものを地域でどうやってくるんでいくかとか、関連させていくかというところの概念というのはどうしても必要なこ

どのように思います。

○副部長 地域で世代間交流というのもすごく大事なことだと思いますし、既にあるものをどうつなげていくかということもすごく大事だと思っています。

もう一つ、それに加わることなのか、まだちょっと頭の中で整理できてないんですけど、先ほど〇〇委員が、余り行政だけがつくって、それをおろしていくのではなくて、地域の住民とか専門家がどう協働していくかということとかかかわると思いますが、若者の無気力とかニートとかという問題があったときに、余りこうあるべきだと、こういうふうにしちゃいけないというふうに言っても、若者は全然言うことを聞いてくれないということがあります。上の世代が、ああだこうだというよりは、もう少し若者自身が責任を持って行動する体制が自然にできていくといいかなというふうに思います。つまり、若い、私は前回紹介しましたが、大学生が児童館に行ってボランティアをすとかというふうにしていくと、ニートというふうにならない。ならないといいますが、次第に小さな子どもと接してという形で、自覚や責任を自然に身につけていくような感じがあるんです。協働という発想も、何かあると杉並区何かしろとクレームをつける、そういうことではなくて、地域住民も専門家も一緒になってやるということ。別な言い方をすれば自分たちも責任を持つということです。そういうことが、地域の人もやり、それから比較的若い人たちも何らかの形で責任を持ってかかわることで、もう少し若い世代、何とかしろという形じゃない形で若者の自立にもつながるのかなというのが、どう位置づけていいかわからないですけど、ちょっと先ほどの協働という言葉に共感してつけ加えさせていただきました。

もう一つ例を言うと、小学校の例ですが、最近の先生はかわいそうだなというふうに思います。例えば学級通信を一生懸命つくってくれる先生がいるんですが、その先生に対して、ある母親が、こんな通信は10年前の古くさいもので役に立たないと先生をしかるんです。その母親は、大手広告代理店に勤めているから、確かに学校の先生が忙しい片手間にやる通信がみすぼらしくてしょうがない。でも、今までの教育の発想だと、先生しっかりしろと先生を責めることで終わりますが、これからは、それだけ力がある親がいるんなら一緒にやりましょうよという流れがもっとある必要があるんじゃないかな。

そうすると、親の方も、自分が持っている力をもっともっと生かせるし、文句を言う主体から、それなりに責任を持って、じゃあ通信もちょっとやろうかなとなっていく。そうすると子どものプライバシーの問題をどうしようかということでもたまたま新たに勉強するとかということになっていく。文句を言う主体から責任を共有するというふうに変わっていく。私は、協働という言葉はそういう意味でのかなり深い意味があるんじゃないかなと思いましたので。以上です。

○部会長　　すごくそれはわかるんですが、それ自身もまた、下手をするとお説教になってしまいますからね。今の子どもたち、親や先生たちの忙しいっていう感じは一体どこから来るのかな。いろんなことをやろうとしても、時間がないというところで足をすくわれたりすることはないのでしょうか。割と自然発生的に盛り上がってできた企画が楽しくて、楽しくやっていたらみんなが周りから加わってくるという形、これ理想なんですけどね。今の、この状況の中ではもうちょっと工夫が要るのかなって。

○委員　　一つのかぎは、地域に暮らすそれぞれが持っていらっしゃる専門性だと思うんですよ。それぞれが自分の持っているスキルを地域にも使おうと。自分のお仕事だけではなくて、地域に使おうというような合意ができてくると、随分いろんな発想がゆたかになったり、それから、じゃあこの分野は先ほどの例にあったように、例えば通信をつくるのは、私がやりましょうというふうになれば、内容もよくなるだろうし、そのつくっていくプロセスもおもしろくなると思うんですね。その専門性というのが自分のキャリアアップだけに使われていたものが、少し地域へ還元していただくというと、それぞれ地域によって非常に特色ある文化が生まれてくるんじゃないかというのが、地域の専門家を発掘しようというような私の提案の根底にはあるんですけれどもね。それがやっぱり地域が持っている文化の力だと思うんで、人材ということですよ。今、部会長がおっしゃった中で、地域の専門性、自分の専門性をどうやって地域に生かすかという視点は非常に重要な解決法の一つになるんじゃないかというふうに私は思っておりますけれども。

○部会長　　杉並区の地域の分布図に応じた人材の発掘とネットワーク、それらがベースになりますね。

○委員 高円寺に行って、やっぱり商店の方たちが持っている、つまり専門性ですよ。僕らって、人が集まってわっとやって、よかったよかったとかと言っているけれど、こうでこうでこうで、こういうところで問題があるとか、実は商店というのは、もうほとんど1週間のうちの3日プラスで生きている世界なんですよってみたいなことというのを初めて聞くと、その知識ってすごいなというふうに思うんですね。だから、僕がそのことに、今、すごく感動しているということもあるんですが、それぞれが持っている、実はふだん気がつかないけれど、個人商店を営んでいるという中には、やっぱり専門知識と専門技術というのがあるんだというふうに思っているんですけども。

○部会長 どうぞ、ほかのことでも結構です。

○委員 いろいろ出てきたので。一つ、杉並区は、〇〇さんがおっしゃった、既にあるシステムって、学校支援本部って杉並区にはあるんですよ。PTAとはまた別で、PTAは先生と親御さんですけども、学校支援本部といたら地域の方が特定の学校を支援しますよとグループをつくっているんですよ。杉並区は全校にあります。仕組みとしては、もう備わってるんですけども、先ほど情報発信と、コーディネーターがどういうふうに動いているんだろうと。その辺で、やっぱり情報発信とコーディネートをマッチングする人が機能しているかしていないかは、学校によって大分差がありますよね。〇〇さんのところの高円寺中さんとか杉四さんとか結構動いていらっしゃるんですけども、地域によっては全然動いてないところもありますし、それは、今ある仕組みがもう用意されているんですよ、実は、器というか仕組みは。

○部会長 PTAもなくなっているわけじゃない。行政がコミュニティースクール、あるいは地域運営協議会もつくりましたよね。それともう一つ、今言われたのは何でしたか。

○委員 学校地域支援本部ですね。

○庶務課長 通称は、学校支援本部と言っています。昨年度で全校、設置が終わっています。

○委員 ですから、そういう仕組みは既にあるので、そこが今後どうなるかということとはちょっとわかりませんが、そちらをもうちょっと強化していけば人材が発掘したり情報を持ったり、また支援本部同士がやりとりできれば情

報の交換とかできると思うんですけども、それで仕組みはいいんですけども。

もう一つ私が気になっているのは、皆さんボランティア、ボランティアとおっしゃるんですけども、学校で私が授業をお願いしたとき、会社を休んでいらっしゃる方とかもいらっしゃるんですけども、別にお金はどうこうじゃないんですよ。ただ、やっぱり、そういう方たちに対して何かお返ししたいというものが余りないんですよ。先生は忙しいとかっておっしゃることもあるんですけど、私、悪いんですけども、結構職員室なんか入っている方だったので、先生によっては来てくれるのが当たり前でしょうという態度をされる方もいらっしゃってボランティアが育たないこともあります。学校なんだから手伝ってよということもあるんですよ。あとは、逆に、来ていただいて本当にありがとうございましたと、その後、子どもたちが、わら半紙に書いた鉛筆の感想文を書いていたく感動されて、それからもう勝手に学校に来ちゃっているようなボランティアの方もいらっしゃるし。先生の言動一つで地域の方、いかようにでも変わるんですよ。ですから、そこで先生たちや、先生が忙しければ、それを支援本部の人がサポートすればいいと思うんですけども、そこが余りに解釈が自由過ぎてしまって支援本部がかなり違うものに何かなっている。違いますよね、どうですかP T Aからごらんになって。

- 委員 学校支援本部は、各校の学校支援本部で全然形態が違まして、かなり自由度が与えられているので、そのトップにある方の力量で全然やり方も違えば内容も違う状態なので。あとは、先ほど〇〇さんがおっしゃった、学校が本当に学校支援本部を必要としているという意識が学校にある学校は支援本部もうまく回るんですんですけども、あつて当たり前、やって当たりの学校の認識があると、支援本部もなかなか動かなかつたり、先ほど〇〇さんがおっしゃった、専門職じゃないんですね、学校支援本部の人というのは。本当にボランティアで一般の卒業生のお母さんとか地域の有力者という方がなってますので、専門性がないところで口出しをして。うちの学校の場合は、どっちかという総合授業のいろんな先生方を、その学校支援本部の方がコーディネートして探してくるとかいう、そういう形をしてるんですけども、

そういうところでも学校によっては専門家じゃない支援本部の方たちが、その授業内容とかについて、ちょっと口を出してくるとうまくいかなかったりするという話も聞きます。予算だけは区からおりるんですけど、その内情に関しては考えて自由という形なので、かなり学校によってうまくいっているところといてないところがあるように見受けられます。うまくいっているところはすごくうまくいっていると思うんですが、そういうところの横の連携というのもどうなっているのかちょっとわからないんですけども。ただ、そういうせつかくそういうシステムがあるので、やっぱりそういうところをもうちょっと突っ込んで手を入れてあげて、素人集団に任せるのではなく、もっと専門家という立場でちょっと導いてサポートしてあげるというのももうちょっと強化すると、学校支援本部にいる方も楽ですし、先生方も適切なものを持ってきてもらえるということではいいのではないかなと。

○委員 学校によっては、私の子どもの学校はオペラ歌手の人がいたんですよ。イタリアで歌っている方なんですけれども、その方が、総合の時間に世界の音楽とか、音楽の授業をしてくださることもあったんですけど、どちらかという手伝いたいという人はたくさんいらっしゃるんですけど、その方たちが定期的にお手伝いできる場がない、人材活用が少ないとは、ちょっと感じましたね。だから、人材はいるんですけど、うまく活用できてないとか、1校にしか登録しないので、ほかの学校に行く機会がないですから、毎年何時間もやらないですよ。そうすると、二、三年に1回手伝うだけで、そのうち関係も薄れちゃってコミュニケーションが育たないので、やっぱりもうちょっと学校だと単位が小さ過ぎる、活用するにはと、ちょっと。

○部会長 一つの学校だとね。

○委員 そうですね。私はちょっと、それを自分で見て、すごくいい人で、すごく授業をたくさんしたいとおっしゃっているのに、1校しかないのに4年生の2学期の何項目めでやってくださいといたらそれっきりじゃないですか。だから、そこが教科書とうまく、逆に私の場合、教科の内容知り尽くしちゃっているんで、これは2学期の9月だとかとわかっちゃうんですけども、ごめんなさい1年間に1回しかお手伝いの場がないんですけどすみませんという話もちょっと。

○委員 例えば、人材ネットワークみたいな、学校支援本部で使える人材、区としてのこのものを持っていると、学校支援本部はそこにこうやってアクションを起こしていくことができると思います。学校支援本部の人が自力で自分のパイプを使って探すのってすごい大変だと思うので、そういうふうに登録制みたいに頭にぼんってあると、子どもたちも平等にいろんな学校でいろんな体験もできますし。

○部会長 それは杉並区にはないんですか。

○委員 私も今、お話を伺っていて、確かに学校単位ですと、そのオペラ歌手の方がことしもやって来年もやるとかいうようなこともなかなか難しいでしょうけれどもね。やはり区の方で、そういう立ち上げていただいて、もっと学校単位じゃなく、杉並区単位というような、そういう感じで専門職の方を大いに募ってやっていただいたらすばらしいものができていくんじゃないかと思うんですがね。

○部会長 杉並区は、人材としてはたくさんいるような気がしますが。

○済美教育センター副所長 済美教育センターがお答えいたします。

済美教育センターの中には、各学校から地域の人材をお出しいただいて一つのリストをつくっています。ただ、やはり、私どもに来る以上に、各学校では学校ごとに、それぞれの人材をお持ちですし、学校支援本部の中でも、かなりたくさんありますけど、やはり地域密着型でやっておりますので、おおよそが地域の中で活躍されていると。ただし、少し余力があって、他のところでもご活躍いただけるという方については、こちらの方にお出しいただいています。ただ、昨年度から作りましたけれども、まだまだ過渡期でして、例えば100件を超えるであるとか、そういうところまではまだいってないのが現状でございます。

○委員 そういう各学校の代表の方が会合を持たれるということはあるんですか。

○庶務課長 今、年1回シンポジウムということをやっているんですが、それしかなくて、今後、所管課の方では、分区単位で情報交換をするような場をやりたいというようなことは聞いております。

○委員 分区単位でね。分区というと、やっぱり6校か7校ぐらい。

○庶務課長 大きな地域という感じですね。小学校7つです。

○委員 せめて、そういう中でも、お互いに専門職の方、専門的な知識を持ってらっしゃる方がほかの学校にも行って、もっと、それからそれがうまくいけば、ほかの、隣の分区にも行くとかいうような輪を広げていっていただけたらいいんじゃないかなというふうに思いますがね。

○副部長 また具体例をあげさせていただきます。ほかの区の例です。プロが子どもの前に来て教えるというのもすごく一方では大事なんですけど、他方で、こういう例もある。こま回しの例として聞いたことがあるんです。子どもたちに伝統的なこまの話を教えるのがうれしくて、45分の授業について3時間も4時間も予習して、45分間中40分説明をして最後の5分間だけこま回しをしたので、子どもたちは退屈してしまい、結局「次回からは来ないでください」という例もあるようです。プロが子どもにきちんと見せるのも大事ですが、そのプロが子どもの目線で、子どもが何を学びたいかということも同時に知らなきゃいけないんじゃないかと思うんです。そういう意味では、専門家をどんどん用意していくことのほかに、研修を通して、子どもと接してどうだったということを確認し合いながら進めていくこと、単に年に1回集まるだけじゃなくて、そういう授業の仕方を意見交換するようなことも、区の方でシステム化を検討していただけるとありがたいです。さっきと矛盾して、注文ばかりしていることになっていきます。

○部長 今ある組織、システムを少し有効活用しましょうということですね。ところで、学校地域支援本部がPTAや地域運営協議会とどういうふうにもうまく整理がついて機能よく回っているのかというのもちょっと気になります。

それから、教師が専門職だというのは、子どもとの媒介の方法論を持っているということなのです。アマチュアであれプロであれ、その人たちが子どもにかかわるのは必要だと思うのですが、いきなりいろいろやるわけにもいけません。そういう場を提供したり、それなりの注文をつけたり、それからそういう機会を与えたら、それをちゃんとフォローしたりという、やはりそこに教師がちゃんと介在して初めて有効に回るのかなというのもありますね。そういう意味では、今出ている人材のネットワーク、リストアップとか人材の発掘とか、それがうまく回るかどうか、回していくということが一つ課題になっていくのでしょうか。

○委員 あと一つ、私は、そういう外部の地域の方をお招きして、私の場合は授業は絶対45分で終わってねという話をして、熟語はわからないから全部使わないでくださいとお願いしてたんですけども、素直に皆さん聞いていただいて、楽しい授業が、うるさく言う人がいれば、できていると思うんですが。私は、やっぱりお招きするに当たって、杉並区の場合は2,200円という謝金をお払いしていました。それは、3時間授業をやろうが6時間授業をやろうが2,200円です。お金が欲しくて来るわけじゃない方ばかりには確かにお願いはしていましたけれども、やっぱり自主的なのという意味のボランティアの方の支えは、子どもたちからのお礼状であったり、先生からのお礼であったりするんですけども、やっぱりその子たちを、大まかに言うと、区から何がしかのボランティアに対する何かというのはないかなと常々思っていましたね。かかわってくださる方に対してボランティア大賞があるとかね。本当にすごい方は、月間30時間ぐらいひたすらお琴を教えている先生というのが私いるんですけども、もう年間でいうと100時間以上、学校でやってらっしゃる方もいらっしゃるってね。そういう方たちの、何か心の支えになる、お金じゃないですよ、お金も当然あればいいにこしたことはないですけども、お金ではなくて、もっと精神的な支えに、継続性ですね、お金じゃなくて継続性を与える力というと、やっぱりそこは何かよりどころというか、生きがいに感じる何か、行政として、そういうところだけ用意してくださると、ちょっといいのかもしれないというふうに、ちょっと思ったりしました。

○部会長 ちょっと行政にいろいろ注文が出ましたので、また後で整理していただきましょう。

時間が押してきましたので、「すべての子どもへの切れ目のない成長・学びと支援」、「成長・学びの支援」かな、このところと、「地域の子育て力・教育力の向上とつながり、文化・生涯学習の振興」、このあたりについても、もしご意見ありましたら出してください。

○委員 2点あるんですけど、一つは、下の段で、「子育て力・教育力」と「文化・生涯学習」が分かれているのがちょっと気になるんですよ。これを何とか、文化力とか生涯学習力というような言葉、なじまないんですけど、やっぱり一つの一連のつながりの中に入れる工夫があった方がいいのではな

いかというふうに思います。

それからもう一つは、平和な世界の実現の前提として、共生社会の実現というように表現が必要なんじゃないか。ともに生きるとか、そういうような、もう一つ何かないでしょうかね。多文化理解のための一番要点というのは、自国の文化というのをきちっと理解することなんですね。それで、言語でも、今すごく英語と言われているんですけども、日本人に一番問題なのは英語力じゃなくて、発言ということができないということが一番大きいんですよ。だから、英語のスキルを持った大学生って実は物すごくいて、けども、それでそのスキルを持って海外大学に留学してみると、授業は聞けるんですけども、そこで自分の組み立てを言うことができない。ともに生きる方法を学ぶという、ある意味では真っ向考えの違ったり習慣が違う人たちとどうやって一緒に生きていけるかという問題だと思うんです。その辺が、もうちょっとこの辺生かされるといいかなというふうに思います。

もう一つは、本当に支援の前に発掘がどうしても欲しいなというのが僕の考えなんですけれども、支援というと、どうしても声を上げたところというふうになってしまうので、やっぱりこちらから見つけていくというような行動がぜひ加わるといいかなと。

二つというのが三つになっちゃいましたけれども、何かここがうまくいくと、このスパイラルがすごくいい感じになるかなというふうに思うんですけども。

○部会長 そうですね、ありがとうございます。ここは課題ですね。子育て力・教育力・文化力ってくっつけたら、だめですか。

○委員 文化力って、実は前の文化庁長官の心理学者の亡くなった河合隼雄さんのお言葉なんですよね。河合さんが文化庁長官におなりになったときに、文化力という概念をお出しになって、河合さんは河合さんで、またいろいろ根拠はおありになるんですけども。

○部会長 発掘と向上とか。

○委員 こういう機会に区の政策と事業について、こんなのあるんだと伺えたことはすごくいいと思うし、それが具体的にどうこうって評価するのではなくて、これだけのことがあるんだっていうことを踏まえて何か考えると、屋上屋の

ような議論をしないで済むので、やっぱりどうしても情報収集と情報整理というのは今必要な時期だと思うんですね。実は個別にはもう取り組みがされているんだけど、うまくそれが整理されてないということが非常に大きいと思うんですね。

○部会長 ほかにありますか。

○委員 根本的な質問で申しわけないんですが、この一番上にある、どんな杉並区民になってほしいかという、このどんなは、最終的に決めるんですか。

○部会長 ですね。ここが一番焦点ですね。

○企画課長 この部分は、当部会の目標にあたるものだと思います。資料3の様々なキーワードに基づく議論を経て、最終的に、この部会としてどういう目標を設定していくかという点での議論が必要かなと思っています。

○委員 ちょっと言葉への誤解があるかもしれないんですけども、教育とか子育てのときに、どんなというと、何か理想像をこっちが決めつけるような感じがすると思うんですね。10年後というのは、今、子どもと言っている16歳ぐらいの人たちが、もはやもう中核を担っていくわけですよ。その人たちがどういう杉並区を要望するかということについて、こちらがあらかじめレールを敷くのではなくて、むしろそういう創造的なものが持続できるというみたいな形を生かすとすれば、どんなというふうに、杉並区民のあるべき姿みたいな表現が、少なくとも教育とか子育ての分野で、出てくるのは、ちょっと気になる場所ですね、言葉としては。

○部会長 どういうふうに言えばいいでしょうかね。まだ生まれてこない子どもたちのためにも、やはり、その人たちが主人公になってつくり上げられる自由と創造の社会であってほしいというのはあるのですが。言葉がなかなか出てこない。ここも課題ですね。

それと、「平和な世界の実現」はアンダーライン引かれているので、これは行政からのお願いということですね。これは言葉は変えても趣旨が同じならいいのですか。

○企画課長 ここのところは、もともとこういうふうにつなげるかどうかということもあったと思うんですけど、私どもの方では、視点として、そういう議論も必要ではないかという認識です。

○部会長 それでは、ほかに言い残したご意見ありますか。○○委員、いいですか。

○委員 結構です。

○部会長 それでは、今日の○○委員のように、部会が終わった後、こういうことを言い忘れたとか、こういうことを言いたいとか、ありましたら、メールでもご意見いただければありがたいと思います。

副部会長、ご意見ありますか。

○副部会長 どんな杉並区民になってほしいかというのは、事前のやりとりでは、どんな人間になってほしいかでしたので、杉並区民としてもいいのではないかというやりとりをした覚えがあります。望ましい人間像という言い方じゃない形がいいですねという中で、こういう文章に落ちつききました。それでも確かに上の世代が心配の余りにルールを敷いているようなところがありますから、もっと自由で創造的で、そういうことができるように育ててほしいなみたいなものがあるといいですね。これも協議を続ければ、良いアイデアが出てくると思います。

それから下の図ですが、地域の子育て力・教育力・文化力の発掘と創造ですかね、発掘と創造と、つながりも入れたいと思います。多過ぎますか。発掘、創造、つながりとか。

○委員 そうしたら、創造とつながりをつないでもいいんじゃないですかね。

○副部会長 創造とつながりですか、やっぱり作り出していくことと、ばらばらじゃなくてつながっていく。協働という言葉でもいいんですが、つながりという言葉でもイメージしやすいのかな。

○部会長 ちゃんと胸に落ちる言葉を使えるというのが難しいんですけどね。その辺りは、もうちょっと皆さんでこれからも議論したいと思いますので、知恵を絞っててください。特に下の方は、もうちょっと入れかえて立体的になればいいなと思います。よろしくお願いします。

それでは、後半の終わりの部分で、事務局の方、この区民意見交換会の実施や区内の各種団体からの意見提出の実施ということについて、説明をお願いします。

○企画課長 その前に、ちょっと確認させてください。資料3については、幾つかまたキーワードいただいて、上の方のライフステージの部分の検討テーマとしては、

「すべての子どもへの切れ目ない成長・学びと支援」ということ。下の方については、「地域の子育て力・教育力・文化力の創造とつながり」、そんなような検討テーマのまとめ方ということでもよろしいでしょうか。

その上で、中身のキーワードの部分について、〇〇委員の方から、身近な文化創造活動のところでは、「の支援」だけじゃなくて「の発掘と支援」ということもありましたし、平和な世界の実現に絡めて共生社会というキーワードもいただきました。そのあたりは、また正副部会長と調整して、次回改めて確認していくことでもよろしいでしょうか。

○副部会長 つけ加えになるかもしれませんが、次回、少し焦点を絞って議論をというときに、上のテーマと下のテーマがつながる具体的な場面として、地域の中で、いろんな世代が交流している場としてはどういうものがあるのかという議論をしてもいいのかなと思いました。保育園にはどういう場があるのか、小学校や中学校では支援本部や運営協議会があるので一つ議題にはなるのかなと思います。そういう情報も私たちの中で共有、もう少ししてもいいのかなと思いました。

○部会長 それぞれ、また地域によって、学校によって違うと言われましたけれど、積極的な事例を紹介していただいて、それを参考にしながら、議論したいと思いますので、お願いしたいと思います。

○子ども家庭担当部長 先ほど企画課長の方から議論を踏まえて確認の意味で、この検討テーマの整理表の関連した話ありましたけれど、ちょっと私から1点だけ。

先ほど会長が、この資料について言及されるときに、上のライフステージ別の箱のところの、この「すべての子どもへの切れ目のない成長・学びと支援」という、この表現について、後段の「成長・学びと」ではなくて、「成長・学びの支援」というニュアンスのお話がありましたけれど、確かにすべての子どもへのとなれば、切れ目のないという、この形容は、恐らく一番最後の支援という言葉につながるものだと思うんですね。そういう意味で、その成長・学び、そして支援を並べて接続する「と」ではなくて、「の」の方がいいのではないかという考えも、細かな話で恐縮なんですけれども、当然あるんですけれども、そこを念のためにもう一度、ちょっと確認、集約していただければと思うんですけれど。

○部会長 ありがとうございます。

最初に読むときに、私が勝手に「学びの」と読みましたし、意味から言えば成長・学び、合わせて両方の支援ということになるかなと思いますが、いかがですか。

○委員 区の基本方針であれば、「の」の方がいいかもしれないですね。成長、学び、支援という、どこが主語なんだといえ、ば、「の支援」、「への」とか「の」の支援の方がはっきりするかもしれないです。

○委員 支援が成長にも係っているということでしょうね。そしたら「の」の方がいいかもしれないですね。

○部会長 では、そういうことでよろしくお願いします。

○企画課長 今、副部会長の方から、こういった資料提供というか、情報が出せればというリクエストをちょうだいしましたけど、大きく二つのテーマをご確認いただいたというようなことで、次回の課題については、また後でご案内するよういたしますか。

○部会長 そうですね、もうちょっと詰めましょう。こちらで整理して皆さんに通知したいと思います。よろしいですか。

○企画課長 それでは、参考資料の1と2ということでお配りしてありますけれども、ちょっとご説明を申し上げたいというふうに思います。

まず、参考資料の1でございますけれども、「10年後の杉並を考える区民意見交換会」の実施ということで、審議会のときにもお話し申し上げてまいりましたけれども、この間、区民アンケートや転出・転入の方へのアンケート等を実施してまいりましたが、さらに幅広い世代、若い方からご高齢の方までということで、改めて6月4日に意見交換会を開催して、今後の議論の参考にさせていただきたいということで、やっていきたいと思っております。これまで懇談会等への区民参加については公募という形で大きな関心だとか興味を持っている方、手を挙げていただいて参画いただくということが主でした。今回、初めて新しい試みとして無作為抽出方式を採用することとして、年齢や性別など区の人口構成を考慮して1,000人の区民を抽出してご案内したところ、102名の方から、ぜひそういうことであれば参加したいということで意向が返ってまいりました。当初60名規模で考えていたんですけれども、100名を超え

る方から意向が示されたので、規模を膨らませて実施したいと思っています。

先ほど、この部会のテーマも大きく二つに集約いただきましたけれども、この意見交換会の進め方として、4の実施方法に書いてあるとおり、参加者を大きく二つのグループに分けて5人ぐらいの少人数の班で、進行からまとめまで区民の方にやっていただきます。

意見交換するテーマについては、3部会でテーマを2つ掲げ、各グループでそれぞれ1テーマずつ合計3テーマを議論いただいて、最後に集約するというところで考えています。当部会のテーマに関しても、区民にわかりやすい表現にして示すため、正副部会長とご相談のうえ、固めていきたいと思っています。委員の皆様には、改めましてご案内してまいりたいと思いますので、ご都合がつけば、ご見学等いただければありがたいかなと思っています。

なお、この結果については発表された意見を集約して、あらかじめ委員の皆様には資料をご送付した上で直近の部会で説明を申し上げたいと、こんなふうにしています。

参考資料の2の方も、そうした一環で、各種の団体から、この基本構想の審議に参考となる建設的なご意見をちょうだいしたいということで、広くホームページと広報で募集をして、6月の上旬までの締め切りでやってまいりたいと思っています。もとより、この審議会にも各種団体から委員に入っただいておりますけれども、当然多くの団体がありますので、幅広く意見を聞くという趣旨でございます。この結果についても、集約した上で、それぞれ関連する部会に情報提供申し上げたいと思っています。

以上、二つの取り組みについて、ご説明申し上げました。よろしくご理解のほど、お願い申し上げます。

○部会長 ありがとうございます。

今の二つの参考資料の内容に関して、ご意見ありますか。ご質問がありましたらどうぞ。

了承していただくということで、よろしいですね。

では、また詳細については連絡があると思いますので、よろしく申し上げます。

以上をもちまして、今日の委員会は、終わりたいと思います。